

全国自閉症者施設協議会平成28年度総会

平成28年度全国知的障害関係施設長等会議

6月22日～24日の3日間、横浜で行われた全国自閉症者施設協議会平成28年度総会と全国知的障害関係施設長等会議に参加してきました。

平成15年からスタートした支援費制度から現行の障害者総合福祉法（H25年施行）のこの十数年間は、国の基本方針として障害福祉計画の計画期間を3年とし見直しをしているため、タイムリーに必要なことへのサービスが生まれることもありますが、先行きの見通し感が持てないことも事実あるのかと思っています。そのような中、毎年行われている全国規模の施設長等会議は国の動向やモデル事業として行っている法人の実践の報告など新しい情報を知ることができる貴重な研修となっています。

1日目のプログラム

厚生労働省からの行政説明 2回

シンポジウム「社会福祉法人制度改革への対応～改正社会福祉法を受けて～」

2日目のプログラム（4つの分科会）

「重度・高齢障害者の支援について」

- 社会福祉法人として、社会福祉法人でないといけない役割を求められてきている。そのために法人組織運営等の議決機関の強化や業務運営の透明化、地域における公益的な取り組みの実施などが強く求められている。
- 本人が望む地域生活の展開として、障がいがあっても一人で暮らしたいニーズにこたえるようなサービス整備や重度の障害があってもグループホームなどへの生活ができるように対応できるような支援体制サービスを整えることを国が明言
- 高齢障がい者の円滑なサービス利用として、介護保険事業への移行。



全国施設長等会議に参加して、いろいろな情報がありました。その中でも印象に残っていることを報告させていただきます。

全国知的障害児・者施設・事業の調査になるのです。健常者の日本人死亡時の年齢階級一番多い年代が80歳代で60%を占めています。それが知的障がい者の場合40代～60代の間で63.4%と一般と比べると15歳ぐらい早い段階で亡くなっています。このことを考えると知的障害さの高齢化も早いことが現実のデータとしても読み取れると思います。

そのため支援する私たちは高齢への対応として40代ぐらいから本人のニーズ・ライフスタイルや体力・健康面など総合的にサービスを提供する視点が必要になることを痛感しました。はまなす園も来年は開設30年を迎えようとしています。20歳で園に入ってきた方は50歳という年齢になります。色々な変化に柔軟に対応できるようなサービスの展開を考えていかなくてはと考えさせられる期会となりました。

☆全国自閉症者施設協会とは？（協会のホームページから引用 <http://zenjisyakyo.com/>）

全自者協は、『自閉症者の人権と生きるための発達保障、自立ならびに社会参加のために実践と研究を推進し、さらに、これに参画するものの研鑽と相互交流を促進することを目的』として、1987年に8ヶ所の自閉症者施設（自称）によって発足しました。現在、会員施設は68施設で利用者定数は3236名、利用者の約75%が自閉症の人たちで、総会と研究会の他に、関係機関との情報交換や要望活動、会報の発行、調査研究活動、海外情報の紹介などを行っています。

今年度の全国自閉症者施設協会は、全国自閉症支援者協会と改名し一般社団法人として施策等にも提言するなど幅広い活動を目指しております。興味のある方は協会へお問い合わせください。